



奨学金制度のご案内

当院では、看護師・助産師・保健師養成学校に入学を予定される方、在学中の方で卒業後に当院で働くことを希望される方を対象に、奨学金制度を設けております。是非この制度を利用し、自分の看護師になるという夢をかなえてみませんか。また、お知り合いの方で奨学金制度の利用をご希望の方がお見えになりましたら、是非ご紹介ください。

お気軽にお問い合わせください。

(058) 388 - 0111 (代)
E-mail jinji@matsunami-hsp.or.jp 担当：人事部 林



講習会・イベントのご案内

第62回開放型病床カンファレンス

医療関係者向け

日時:6月3日(金) 18:00~
場所:松波総合病院 3階講堂
テーマ:『失敗しない病院設備~感染対策の観点から~』
講師:大阪府済生会千里病院 感染管理室 副室長 池上 美保先生

第63回開放型病床カンファレンス

医療関係者向け

日時:6月17日(金) 20:00~
場所:松波総合病院 3階講堂
テーマ:『診療録・記録類の重要性について』
講師:NKSリスクマネジメント株式会社 医療リスクマネジメント事業部 主任コンサルタント 松良 基弘氏

かかりつけ医院のご紹介



羽島郡 笠松町のメイプルクリニック伊藤内科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
午後 2:00~6:30	○	○	○	—	○	—

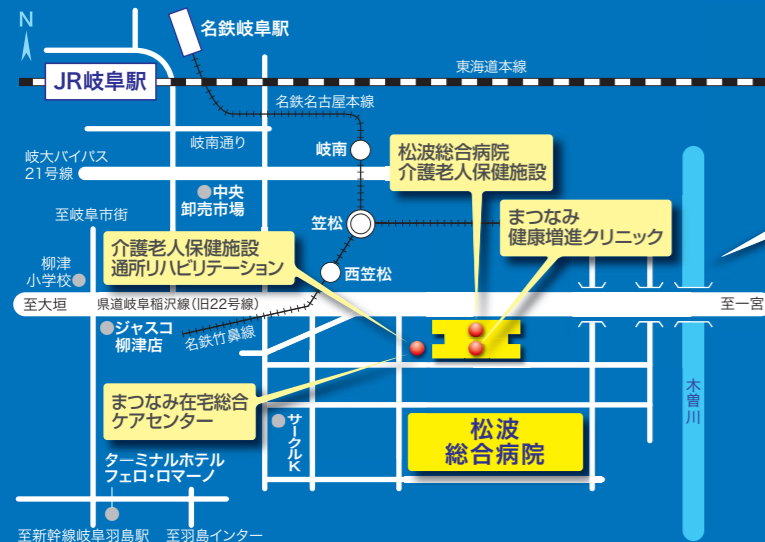
—:休診

院長:伊藤 康

地域医療提携医院として、地域の皆様の健康維持・増進のため、7名の医療スタッフで協力しながら日々の診療に励んでいます。内科系の疾患を中心に診療しておりますが、体調などで気になる事がございましたら、どのようなことでもサポートさせていただきますので、お気軽にご相談ください。

- 内科
- アレルギー科
- 小児科
- 呼吸器科
- 循環器科

休日 日曜日・祝日
〒501-6051 岐阜県羽島郡笠松町上本町13
☎ 058-387-2257
FAX 058-388-7002



お気軽にお問い合わせください。
058-388-0111
http://www.matsunami-hsp.or.jp/

当院は、病院内・敷地内全面禁煙です。皆様方のご理解とご協力をお願いします。

社会医療法人 蘇西厚生会 松波総合病院 〒501-6062 岐阜県羽島郡笠松町代185-1

患者さまと
病院をつなぐ
かけはし
No.140
MATSUNAMI

まつなみ

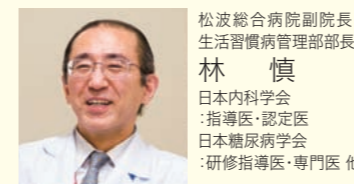
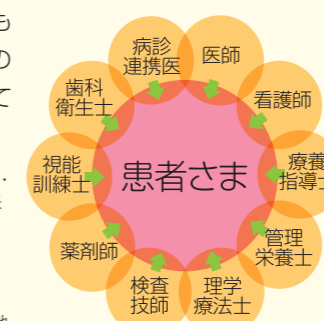
2011
6
発行
社会医療法人
蘇西厚生会

医療最前線 命を支える最新医療

特集 生活習慣病管理部 その1

患者さま中心のチーム医療で 一歩進んだ生活習慣病の 療養指導を実践。

生活習慣病の代表的な病気といえば、「高脂血症」「高血圧」「糖尿病」。なかでも糖尿病患者さまの増加は著しく、その数は推計890万人、予備軍を含めると2,200万人とも言われ、多くの糖尿病患者さまの病気を管理するための支援が求められています。そこで当院では、診療部門の中に「生活習慣病管理部」を設け、医師をはじめとする医療のプロたちがそれぞれの専門性を持ち寄り、チーム医療で糖尿病をはじめとする生活習慣病のトータルケアを実施。かかりつけ医の方々とも連絡を取り合いながら、地域の皆さまの健康増進を応援しています。



松波総合病院副院長・生活習慣病管理部部長
林 慎
日本内科学会
指導医・認定医
日本糖尿病学会
研修指導医・専門医 他

糖尿病の知識プラス専門性を活かした 連携プレーで、大きな成果をあげています。

糖尿病は「自己管理の疾患」と言われます。いくら薬物療法やインスリンを打っても、食べ過ぎたり、運動していなかったりすると血糖コントロールはうまくいきません。その結果、動脈硬化の進展や合併症の発症を招くこととなります。これを防ぐためには、自分にあった自己管理法を見つけ出し、継続的に実践していくことが何よりも重要です。そこで生活習慣病管理部では、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士ら総勢33名の医療スタッフがチームを組み、外来、病棟の区別なくおもむいて患者さまに接し、検査データの分析、患者さまへの聞き取り、日常生活や食生活のチェックなどあらゆる角度から患者さまの病態をみつめ、情報を共有することで、糖尿病予防・治療・教育活動を展開しています。



<構成メンバー> 日本糖尿病学会認定指導医4名、日本糖尿病学会認定専門医1名、糖尿病看護認定看護師1名、糖尿病療養指導士9名
<兼任スタッフ> 管理栄養士6名、理学療法士9名、検査技師3名、薬剤師12名、視能訓練士1名、歯科衛生士1名

多彩なプログラムで、患者さまとご家族の療養生活を応援しています。

糖尿病は患者さまとご家族が健康管理の中心となり、日常生活の中で療養法を一生続けることが必要です。そのため、「糖尿病教室」や「糖尿病療養指導入院」「糖尿病患者友の会」の企画運営、「退院後の療養指導」など、多彩な活動を通して患者さまが病気について十分に理解し、積極的に自己管理(治療、療養、生活習慣など)ができるよう支援しています。さらに生活習慣病管理部主催の「勉強会」や「セミナー」も開催して、かかりつけ医との情報交換の場を設けるとともに、地域における糖尿病治療と管理のレベルアップにも努めています。



次号では、私たちがいま最も力を入れている「糖尿病療養指導入院」についてご紹介します。お楽しみに!

「産婦人科・小児科病棟からこんにちは」
“笑顔が見られる看護”
を目標に日々患者さまと向き合っています。



看護師長
大暮 訓子

4階病棟は、産婦人科・小児科を主体とした女性中心の病棟。医師7名(産婦人科4名、小児科3名)と看護師17名が力をあわせ、新しい生命の誕生から老年期まで、女性病棟特有の細やかな配慮と心配りで、心身ともに充実した看護ケアの提供を心がけています。



**女性の妊娠、出産、育児を
全力で応援します。**

産科では、不妊症治療から切迫流産、分娩、産褥育児まで継続看護を行っています。妊娠・出産そのものは昔に比べると安全になりましたが、それでも妊娠・出産に伴う母体や胎児の合併症のリスクは少なからずあります。そのため、助産師を中心に、手と目で患者さまをしっかりと見て、判断し行動することで異常の早期発見に努めるほか、妊娠・分娩・育児に伴う指導や精神的フォローを行っています。

**女性ならではの思いや悩みに
寄り添った看護を提供します。**

婦人科は、月・木が手術日で、子宮筋腫や卵巣腫の内視鏡的手術を中心にを行っています。



毎月15~20人の赤ちゃんが誕生しています。うれしいことに、親子2代にわたって当院で出産される方も多いですよ!

ここにはがん患者さまも入院されており、手術前後の化学療法看護を行っています。子宮がんや卵巣がんは女性特有の病気であることから、私たち看護師もそれぞれの病気に対する十分な知識を持ち、患者さまをしっかりと観察することで、より専門的な看護が提供できるよう努めています。また、患者さまが自分らしい生活を送りながら、安心して化学療法を受けられるよう、メンタル面でのサポートも大事に考えています。

**未来を担う子どもたちの笑顔が、
私たちの元気のもと。**

小児科は、肺炎、気管支炎、脱水、腸炎など、急性期や短期入院のお子さんを中心です。対象は、0歳児から15~6歳と幅広い年齢層になります。お子さんと看護師のより良い人間関係を築くとともに、不安と苦痛を最小限にしながら、年齢発達を意識した関わりができるように努力しています。また、小児の場合はご家族が付き添われることも多いので、ご家族に対するサポートも大事に考えています。最初は何をやっても心を開いてくれなかったお子さんが元気になり、笑顔で退院する姿を見ることが、私たちにとって最高にうれしい瞬間です。

お子さんが少しでも楽しい入院生活を送ることができるよう、フロアにはプレイルームを設けています。



**おいしく食べて
元気になろう!**

内分泌代謝部長兼NSTディレクター
棚橋 弘成



専門分野：内分泌疾患 糖尿病
認定資格：日本内科学会：認定医・指導医

栄養サポートチーム(NST)があなたの健康を応援します。

近年、メディアで取り上げられる機会も多くなった栄養サポートチーム、通称NST(Nutrition Support Team)は、院内の多職種からなるスタッフ(医師・栄養士・看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・言語聴覚士・歯科衛生士・ソーシャルワーカーなど)で構成された組織で、主な役割は入院患者さまの栄養管理に関して主治医への提言です。活動目的は、患者さまの栄養状態の改善によるQOL(Quality of life:生活の質)

向上ですが、結果的に在院日数短縮や薬剤使用節約などにもつながり、つまり医療費抑制効果も期待できます。当院NSTは04年6月に設立され、同年8月に日本静脈経腸栄養学会(JSPEN)から、06年9月に日本栄養療法推進協議会から、それぞれNST稼働施設に認定され、その後一部のメンバーは、栄養サポート専門療養士や摂食嚥下認定看護師としての資格認定も受け、専門知識をフルに活用しています。ひとりでも多くの患者さまがおいしく食事を食べられるように、チーム一丸となって、これからも日々活動を続けます。



石黒管理栄養士が
お届けする

体に◎ヘルシーレシピ

**野菜たっぷりバランスアップレシピ
野菜たっぷり塩焼きそば**

1人前
456 kcal

<材料・2人前>
 蒸し中華めん … 300g
 帆立貝(貝柱) … 40g
 いか … 30g
 酒 … 小さじ1
 塩 … 0.4g(ふたつまみ)
 ごぼう … 150g
 たけのこ … 20g
 にんじん … 30g
 アスパラ … 60g
 しょうが(みじん切り) … 小さじ1
 にんにく(みじん切り) 小さじ1/2
 ごま油 … 小さじ2
 酒 … 小さじ2
 塩 … 小さじ1/3
 鶏ガラスープの素 … 3g
 こしょう … 少々
 桜えび … 大さじ1
 かつお節 … 適量

<作り方>
 ①帆立貝柱は半月切り、いかは1口大に切り、Aをふいて下味をつける。
 ②ごぼうはささがきにする。にんじん、アスパラは適当な大きさに切る。
 ③フライパンに、しょうが、にんにく、半量のごま油を入れ火にかけ、香りが立ったら①を加えてさっと炒め、取り出す。
 ④③のフライパンに残りのごま油を熱し、②を入れて炒める。中華めんと水少々(分量外)を加えて炒め、魚介類を戻し入れ、Bで味を整え、桜えびを入れる。
 ⑤器に盛り付け、かつお節をのせる。

！ここがヘルシーポイント!

普段の食事で不足しがちな野菜。しかし、野菜にはビタミン、ミネラル、食物繊維など体の調子を整え、機能を正常に保つなど重要な働きがあります。今回紹介する焼きそばは、具に野菜をたっぷり加え、栄養バランスと満足感をアップしました。

くすりのお話し



**「お薬手帳」は、
いざというときも便利です。**

平成23年3月11日、東日本大震災が発生しました。被災者の中には薬の服用が必要な患者さまも多く、中には適切な薬の供給を受けられない方もいました。原因として震災直後による薬不足、服用中の薬がわからない、薬剤師不足による適切な薬の選択ができない、薬の飲み合わせを確認することができないなど問題点が多くありました。このようなことを防ぐために、保険証と一緒に「お薬手帳」が

あると便利です。お薬手帳は現在服用している薬の種類や服用方法がわかるため、医療スタッフに見せることにより、混乱している現場でも誤薬を防ぐことができます。お薬手帳を持っていなくてもお薬説明書や飲んだ後の空シートでもわかります。災害時でも困らないように、現在服用している薬がわかるものを保管しておくに役立ちます。